

滋賀大学経済学部附属史料館 にゆうす

2021・10・04

S・A・M

No. 55

日記という記録

本年度の秋季企画展では、流行病はやりやまと売薬を取りあげます。「近江国に本宅を置いて、他国稼ぎをした商人」である近江商人は、近江の本宅と出店とで常に書状（書簡）や人を通して情報をやりとりしていました。その多種多様な情報には直接、商売に関わることだけでなく、流行病や自然災害など広範囲に影響を与える出来事に関する情報も含まれていました。また当主本人も本宅から出店に向いたため、種々の出来事を道中で自ら見聞することもありました。そうした見聞は日記という形で記録されています。

書状（書簡）や日記という文献資料、とくに近世以前のもの日本の古文書学においては、「古文書」と「古記録」とに分類します。「古文書」とは、特定の人（々）が別の特定の人（々）に対して意志表示を行うものとされます。つまり、「古文書」には差出人と受取人、用件、日付が通常、備えられています。近江商人が本宅と出店とのあいだでやりとりした書状は「古文書」にあたりません。たほう「古記録」とは、「古文書」とは異なり、明確な受取人がいないものとなります。旅の道中の出来事を記した日記は「古記録」ということになります。

日記は、日々、身の回りで起こったことが淡々と記される記録

です。日付とともに、書き手のもとを訪れた人、書き手が訪れた場所や人、書き手やその周辺の人々に起こったことや見聞したことが、後にさまざまな人に参照されうる形で記録されていきます。近世以前の日記には朝廷や幕府・藩などに職をもつ人々（「公人」）がその職務にかんして記録した「公日記」と、それら以外の人々（「私人」）が残した「私日記」とがあります。近江商人やその使用人が書いた日記や日誌は、その商売に関連した記録ではありませんが、「私日記」となります。

私人の日常身辺の記録である「私日記」には、時として個人の範囲を大きく超えた出来事（「非日常」）が活写されることがあります。今回の展示でご覧いただく日記にも、流行病の様子が自らや身近な人々の出来事として具体的に記されています。その記録はあくまでも、ある時、ある場所に生きた書き手やその周辺に起こった、プライベートな出来事、もしくは出来事の見聞や伝聞なのですが、そこからわたしたちはパブリックな出来事の具体相を知ることができるのです。

（史料館長 坂野鉄也）

二〇二一年度（令和三年）企画展

「近江から見る流行病と近江の薬」

期 間：二〇月一日（月）～二二日（金）

休館日：土・日・祝日 休館（ただし、一〇月二三日（土）は開館）

開館時間：九時三〇分～一六時三〇分 **予約優先制**

関連講演会

「幕末・維新期のコレラ流行と地域社会」

東北芸術工科大学歴史遺産学科准教授 竹原万雄氏

開催日時：十一月六日（土）一三時から **ライブ配信**

◎観覧予約及び講演ライブ配信の詳細は、当館ホームページをご覧ください。